



ふくら こういち
福羅 浩一氏 (今治市・越智郡選挙区・自民)

プロフィール

1968年(昭和43年)11月7日生まれ。今治市出身。1993年に早稲田大学社会科学部を卒業し、建築・リフォーム業の(株)エムビーホーム入社。同社退社後、山本順三県議の事務所職員となり、2004年から2006年9月までは山本順三参議院議員秘書。2007年4月の県議選(今治市・越智郡選挙区)に出馬し、初当選を果たす。

半年間悩み抜くが、志を伝えた 支援者全員に背中を押されて出馬を決断

—— 今回の県議選に出馬を決

断された政治的背景、動機などは。

福羅 私は大学卒業後、東京で知人と住宅リフォーム会社を共同

経営していましたが、父が急逝し、

母が体調を崩したため、会社を辞

めて故郷に戻ってきました。いず
れは再び東京へとは考えていたも

の、母の具合いから少なくとも
半年ぐらいは身動きは取れませ
ん。

そこで、親族一同が支援してい

た山本順三先生(現参議院議員)

に就職先を相談したところ、丁度、

県議選直前だったため、選挙をお
手伝いすることになり、それをこ

縁に先生の秘書として、お世話に
なることになりました。ただし、
この時点では自らが政治家を目指
そうとは全く考えていませんでし
た。

政治への志が芽生えたのは、合
併に伴う今治市長選で越智忍市長
が誕生し、「海事都市構想」を掲

げられた時でした。私の周囲は亡父を含めて海事関係の仕事に携わっていましたし、山本先生の秘書として、造船、海運関連企業の方と接してきたこともあり、この構想は私の胸に突き刺さりました。政治的な立場から、是非ともこの構想実現のお役に立ちたい、そんな思いから県議選を視野に入れることになったわけです。

県議選が近づくにつれて、周囲の方々からは、出馬要請もありました。しかし、今治市長選のしこりが残っていましたし、私自身、経験も実力もないのに、果たして政治家としてやっていけるんだらうか。また、こんな私を支持して戴けるのだろうか、という不安にさいなまれ、約半年間、悩み抜きました。

そこで、同級生や親族など、本

当に心許せる人たちに自分の気持ちを正直に打ち明けました。私が出れば批判の声も上がるかもしれないが、それを覚悟で志を貫きたいと申し上げたわけです。一人でも反対すれば断念するつもりでしたが、全員が「やってみる、応援する」と背中を押して下さったので、最終的に今回の県議選への出馬を決断しました。



小泉交差点に毎朝立ち続け、 ひたすらお辞儀を繰り返した姿が共感呼ぶ

—— 今治市・越智郡区は最激戦区となりましたが、選挙では何をどう訴えられ、手応えは如何でしたか。

福羅 政策的には、「海事都市構想」の推進を含め、地場産業の振興を第一に挙げました。そして、

「海事都市構想」は基本的に、越智市政の政策課題ですが、その推進には国や県との連携が不可欠であり、民間の海事関係者とも一体的に取り組まなければなりません。海事関係に由縁の人間として、この大きな夢の実現にひと役買えるならば、それは故郷に対するご恩返しにもなる、それが偽らざる率直な気持ちでした。

今治市でいじめによる自殺という悲しい出来事が起きた直後だったこともあり、第二に教育の問題、さらに第三には福祉の問題を訴えました。その他、都市基盤整備や環境問題等にもスポットを当てました。

ただし、こちらは若い新人候補です。有権者の正直な声として、「君に何ができるの?」という問い掛けが多かったので、途中からは政策を訴えるというよりは、自分の県政、今治市政に対する思い、どう皆さんのお役に立っていかのかという政治姿勢を示すことに力点を置くようになりました。

それを象徴したのが、今治市の小泉交差点での街頭活動でした。告示までの約一カ月間、私は一日も休むことなく午前七時半から八時まで、一人同じ場所に立ち、道行く人や行き交う車にお辞儀を続けました。街頭演説というよりは、ひたすらお辞儀の繰り返しです。仲間は「一人では寂しいだらう。明日から一緒に立ってやる」と言ってくれましたが、感謝しつつもお断りし、孤独な戦いを続けました。告示後も、可能な日はやはり小泉交差点に立ちました。

寒い時期で腰は痛く、白い眼で見られる苦痛も経験しましたが、実は皆さん、私の姿をちゃんと見てくれていたんですね。当選後も

今治市の「海事都市構想」に 力を注ぐとともに、 県政改革の推進力に

最初の一週間、私は再び「小泉交差の人」となりました。すると、道行く人はもちろん、車や二輪車の人もわざわざ停車し、「ずっと見ていたよ。あなたに投票したよ。良かったね」と言ってくれたので

誠意をもって説明責任果たし、 自らの信念を貫ける政治家に

—— 今後、政治家として大切にしていける理念、信条は。

福羅 議員秘書として感じてきたのは、国政、地方政治を含めて、説明責任を十分に果たしていない政治家や秘書が多いのではないかと。ということ。陳情を受けても、要望に実際お応えできることというのは、一〇あればせいぜい一つか二つ程度です。それ以外は残念ながら意に沿うことができません。

そこで大事になるのは、何故難しいのか、実現できないのか、相手に理由をきちんと説明した上で、要望に少しでも近付けるような次善策はないのか、一緒に悩み

す。選挙の勝因はいろいろあり、もちろん、支援者の力が最も大きいわけですが、まずは候補者自らが目に見える形で情熱と誠意を示すことが基本である、それを学ばせて戴きました。

選挙戦でも訴えさせてもらいましたが、「誠実さと丁寧さを大切にする」、これを私の政治理念として堅持していきます。

考えることです。陳情等に誠心誠意応えようとしたならば、そこには行動が生まれ、行政機関等との具体的なやり取りが発生するため、相手にも状況を分かりやすく説明することができるようになります。その説明責任を果たすことが、政治家の県民に対する誠意であり、務めであると考えています。

1万人以上の方の負託に応えるためにも 具体的な成果を

—— 当選後、自民党に会派入りされましたが、その理由は。また、加戸県政へのスタンスは。

福羅 自民党所属を希望したの

は、一つには自民党員であり、有権者としてもずっと支持してきたからです。また、第二には、僭越ながら県議会の各会派を見た場

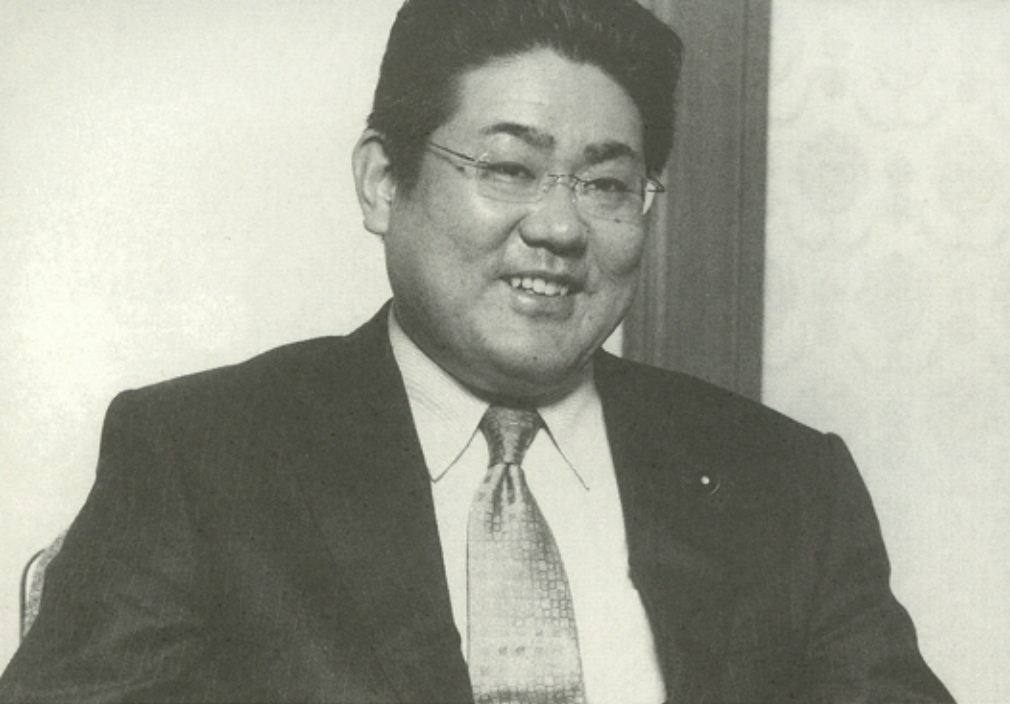
高 感 動 ステーション

企画・デザイン・DTP各種入出力・製版

takumi

たくみ

松山市千舟町6丁目5-9(大西ビル3F・4F)
TEL (089) 945-1891(代)
FAX (089) 945-1804
e-mail: info@takumi1001.com



合、個々の議員の資質・力量、会派としての勉強量や情報量、活動内容など、いずれを取っても自民党が優れていると思ったから、この二点です。

私は県議選で一万票以上を獲得しました。いわば、一万人以上の方から県議としての負託を受けたわけです。それにお応えするため

には、具体的に成果を積み上げていかなければなりませんし、そのためにも県政最大与党の一員となることには大きな意味があります。後援会幹部との話し合いでも、そうした思いを率直に語らせて戴き、皆さんの納得を得た上で、自民党に会派入りをお願いしました。

加戸知事が初当選された時は、

まだ東京で仕事をしていましたから、遠くから故郷の知事を眺めるとい感じでした。その後、山本先生の秘書となり、知事ともお会いする機会を何度か得たわけですが、人物的にも大変優れた方であり、県議選直前の知事選も個人的に応援させて戴きました。

全国的に地方財政が逼迫化する中、加戸知事は思い切った財政構造改革を進めておられます。補助金カットや公共事業の削減というのは、なかなか打ち出しにくい話ですが、知事は自ら悪者役を買って出られ、明

るい愛媛の未来を切り拓こうとされていきます。

この財政難を乗り越えられるのは、加戸知事を置いて他にいませんし、県政責任与党の一員として、しっかりとお支えしなければなりません。議員は理事者と違い、政

島しょ部の医療としまなみ海道の 通行料金の問題に光当てたい

—— 選挙区である今治市・越智郡区の政治課題については、どうお考えですか。

福羅 先に申し上げた通り、越智市政の柱である「海事都市構想」の推進は、私が特に力を入れたい政治テーマです。

また、私が地盤とする旧伯方町を中心とした島しょ部は、過疎という深刻な地域課題を抱えており、若者の流出が進んでいます。若者が島に残って過疎化に歯止めをかけるためにも、雇用の場として、地元根付く産業の振興を図るとともに、若い世代の様々な活動が活発化するよう、バックアッ

策を遂行する立場にはありません。予算審議が主たる仕事になるわけですが、一年生議員ながらもしっかりと勉強し、多少なりとも政策提言等を行うことで、加戸知事が進められる県政改革の推進力になりたいと考えています。

プしていかねばなりません。

生活インフラという意味では、救急医療を含めた島しょ部の医療体制を整えていく必要がありますし、瀬戸内しまなみ海道の通行料金の問題も切実です。島に暮らす人にとって、しまなみ海道はまさに「生活橋」、「生活道路」ですが、

料金があまりに高く、何とかしてほしいというのが、島しょ部全住民の共通した切望です。この点は、先輩議員と一致団結して、少しでも地元住民の負担軽減になるよう、全力で取り組ませて戴きます。「格差」の問題で言うならば、私の選挙区の場合、業種間の格差

が進んでいます。造船・海運や一部の地場大手企業は、業績好調ながら、国際競争にさらされるタオル業界は苦戦が続いていますし、商店街も活力を失っています。この格差を埋めていくには、個々の企業や業界の自助努力が求められます。行政が主導すべきものではありません。

農林水産業の再生は大胆な発想、果敢なチャレンジで

—— 全県的な政治課題という点では。

福羅 愛媛県の伝統的な基幹産業は農林水産業です。都市部を中心に産業構造の転換が進んできたとはいえ、まだまだ農林水産業及びその関連産業の就業人口は多く、特に島しょ部や中山間地の農林水産業への依存度は高いものがあります。加戸知事が力を入れておられる南予振興や産業間格差の是正という観点からも、農林水産業の再生は、県政の最重要課題の一つということができません。

しかしながら、前向きに努力する企業、業界をサポートするという意味では、行政にできることは沢山あると思います。県議として民間と行政の「橋渡し役」を果たし、低迷する業種の底上げ、ひいては格差の是正に貢献したいと思っています。

そのためには、一農民としてそれぞれが生き残ろうというのではなく、農業を株式会社化し、企業経営の感覚で商品開発や高付加価値化、販路開拓などに創意工夫を凝らすことが求められます。素材としての農林水産物には、まだまだ素晴らしいものが沢山眠っていますし、それをどう磨いて、全国へ海外へと情報発信していくのか、やり方次第で農林水産業は甦ると思います。

村上水軍の本拠地である能島の隣りに鶴島という小さな島があります。私の父の故郷ですが、今の人口はわずか三五人で、地元にはこれという商工業はありません。私も島民の皆さんと島の存続を真剣に考えてきました。その中で出てきたのが、村上水軍が活躍していた頃の古代大根の復活でした。現在、「むかし大根」、「鶴島らっきよ」という二つのブランドを開発しており、これをどう島外に売り込んでいくか、皆さんの夢が拡がりつつあります。

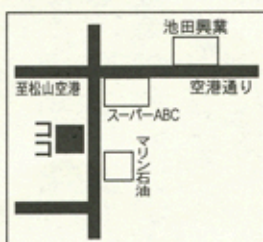
さらに、能島周辺では上質の鯛が上がりやす。これも「能島鯛」としてブランド化し、インターネットで販売し始めました。本格展開はこれからですが、都市部を中心として注文も入り始めており、地元では手応えを感じています。タオル業界でも、その織り方を応用したごさの製造や工芸品としての欧州への輸出など、新たな動きが活発化しています。結局、既成概念に縛られた議論、取り組みでは、「救世主」は生まれず、マインズ志向の悪循環に陥るばかりです。一〇〇考えて、成功は一つでもないというぐらいの大胆な発想を持ち、果敢に新しいことにチャレンジすることが、再生の道を拓くのではないのでしょうか。

また、予算の歳出面では、厳しい財政事情故に、縮小均衡の方向に向かいがちですが、必要なものはきちんと予算化するという視点も不可欠です。特に未来の愛媛を託す子供たちへの教育については、何とか財源をひねり出し、予算を重点配分していくべきだと考えています。

■新車・中古車販売 ■高価買取 ■車検修理・整備
■板金修理 ■各種保険 ■用品販売

Universal

株式会社 ユニバーサルオート愛媛



営業時間 / 10:00~19:00

住 所 / 松山市南吉田町389-3

電 話 / 089-974-0144